



2017.9.27  
藤島高校図書委員会

## 読書界 9月号 「〇〇な秋」

### 幸せの秋『また、同じ夢を見ていた』 住野よる

放課後、堤防の上を歩いていた一人の少女と子猫は、幸せについて考えていた。少し背伸びをした少女は、毎日が退屈で幸せが何なのかよく分からなかった。そんな少女が、不良の女子高生や老婆と出会い、それぞれ異なった形の幸せがあることを学び、自分の幸せについて考える物語である。この物語はファンタジーな要素を多く含んであり、伏線が随所にある。その伏線を全て回収し、内容を完全に理解すると、心が温まり感動できる。図書室に行き、是非この本を読んで欲しい。

1-8 宮下 拓巳

### 読書の秋『ビブリア古書堂の事件手帖』 三上延

物語の舞台は一軒の古本屋「ビブリア古書堂」。そこで働く活字が苦手な店員、五浦大輔と人見知りなのに本のこととなるとよく話す店主、篠川葉子のところには、古書にまつわる謎が迷いこんでいきます。さまざまな本が題材になっているので、探して読んでみるのもおもしろいかもしれません。

2-4 濱田 美由

### 食欲の秋『真夜中のパン屋さん』 大沼紀子

都会の片隅で真夜中にだけ開かれる不思議なパン屋さん「ブランジェリークレバヤシ」。ここを舞台に夜な夜なやってくる一風変わったお客様たちが嵐のように巻き起こしていく事件とは・・・

題名の通り、いたるところにパンが登場し、読書の秋と食欲の秋を一度に楽しむことのできるおすすめの一冊です。ぜひ、読んでみてください。

1-5 伊藤 佑奈

### ミステリーの秋『うちの執事が言うことには』 高里椎奈

事件解決のきっかけは、その「目」にあった――。色彩感知能力の高い主人公(イギリス帰りの新米当主)が、その目と優秀な執事に助けられながら事件に挑む！本格的な主従関係や、主人公が抱える特異であることの孤独や葛藤、個性あふれるキャラクターなどにも注目。主人と執事が謎を解く、といえばどこか既視感を感じるが、この二人は一味違う。強い正義感から事件の真実を解き明かしたい主人と、事件に関わって家と主人を危険にさらしたくない執事。「不本意コンビ」が織りなす、上流階級ミステリー。

1-5 小森 星奈

